

庄内大豆通信 第 4 号

令和3年8月20日

庄内総合支庁農業技術普及課 TEL:0235-64-2103 FAX:0235-64-2104

適期防除と雑草対策で高品質の大豆生産！

本年の開花期は7月26日頃と平年よりも3日程度早くなりました。それに伴い紫斑病の防除適期が早まります。適期に病害虫防除を実施しましょう。

1. 紫斑病・マメシクイガの防除

紫斑病、マメシクイガは収量・品質に影響を及ぼします。適期防除を行いましょう。

○紫斑病

感染しやすい時期である開花後 25 日～35 日に防除を行います。

マメシクイガと同時防除を行う場合は、マメシクイガの発生時期に合わせて防除を行います。

※薬剤散布は、薬液が莢に付着するよう丁寧に実施しましょう。

○マメシクイガ

日長に反応して成虫の発生時期が決まります。

8月下旬～9月上旬に産卵盛期となるため、ふ化幼虫の侵入を防ぐために8月25日頃と9月5日頃の2回防除を基本とします。

連作圃場や前年の発生が多い圃場は生息密度が高くなる傾向があります。



表1 紫斑病・マメシクイガの防除適期と防除時期の目安

品種	今年度の開花期	紫斑病防除適期 (開花後 25～35 日)	マメシクイガ防除適期
リュウホウ	7月23日頃	8月27日まで	1回目：8月25日頃 2回目：9月5日頃 (1回目散布の約10日後)
エンレイ	7月26日頃	8月30日まで	
里のほほえみ	7月27日頃	9月1日まで	

防除例：

1回目防除 (8月25日頃)
紫斑病 + マメシクイガ



2回目防除 (9月5日頃)
マメシクイガ

2. その他の病害虫防除

1) マメハンミョウ

○成虫は、雄 11～14mm、雌 14～19mm の細長い甲虫。近年発生が多く、群生して大豆の葉を食害する。体液には毒があり、皮膚につくと、水ぶくれができてやけどのような症状を起こす。

○防除する場合は、マラソン粉剤3を使用する。



2) ウコンノメイガ

○年2回発生する。葉が巻いており、開くと透明がかったアオムシが入っている。幼虫は、1～数枚の葉を縦長の円筒状に巻き込み、糸で綴り合わせ、中で蛹化する。

○トレボン乳剤で、マメシクイガと同時に防除できる。



3) ダイズシストセンチュウ

○通常7月中旬以降に、大豆の生育が停止し草丈が低く、茎葉が黄変する。密度の高いほ場では根粒が激減し、収量も大きく減少する可能性がある。

○機械や長靴に卵を含んだ土壌が付着し他の圃場に伝播する。防除・刈取りなどで発生圃場に入る場合は最後に入り、作業後に機械や長靴は洗浄する。



○次年度に持ち越す卵の数を格段に減らすため、被害株が少ない場合は、早めに抜き取り圃場外に搬出する。

3. 雑草対策

今の時期に対策を行うことで、秋に思いがけなく大きくなった雑草の抜き取りをする手間が省くことができ、さらに雑草との競合を回避できます。

○除草剤の効果が期待できないような大きい雑草は、翌年への種子の持ち越しを少なくするため、実（種）が付く前に圃場外に搬出しましょう。

○登録が「雑草茎葉散布」となっている除草剤は、大豆の茎葉にかからないように散布しましょう。株間に残草がある場合は、見つけ次第手取り除草を行きましょう。

あぐりん(やまがたアグリネット)で最新情報入手!

PC やスマートフォンから、作物別・地域別のタイムリーな技術情報・病害虫・防除・農薬情報をご覧になれます!

